

令和 5 年 6 月 20 日現在

機関番号：36301

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2022

課題番号：19K00487

研究課題名（和文）ドイツ文化における中世的身体観の形成と受容 - 内と外の乖離に生じる逆説について

研究課題名（英文）The formation and reception of the medieval view of the body in German culture: on the paradoxes that arise in the divergence between inside and outside.

研究代表者

伊藤 亮平（ITO, Ryohei）

松山大学・法学部・准教授

研究者番号：80781070

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究においては、抑圧されたキリスト教信仰下で発達した中世の身体と内面の逆説的表現を検証した。研究の結果、宮廷では規範の維持と逸脱化が併存しており、遊戯の特徴である教育的要素と娯楽的要素の二律背反が宮廷文化の特色となっていることを示した。そして、外見と内面の乖離の美学は、形骸化した日常性を打破する手段として機能したことを明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究では、中世文学において伝統的な逆説的レトリックがもたらす遊戯性を軸に、中世ドイツの身体観を再検討した点に意義がある。さらに中世フランス、ドイツ近現代という共時性・通時性を視野に入れた点、また、これまで日本で取り上げられることの少なかった、『ヴォルムスの薔薇園』、ウィッテンヴィーラーの『指輪』、ウルリヒ・フォン・リヒテンシュタインの『婦人奉仕』、1230年以降の後期ミンネザングを考察対象に含めており、作品の紹介という点においても意義がある。

研究成果の概要（英文）：In this research, the paradoxical representation of the body and the spirit in the Middle Ages, which developed under the repressive Christian faith, was examined. The results of the research show that the maintenance and deviation from the norm coexisted at court, and that the dichotomy between the educational and recreational elements characteristic of play was a feature of courtly culture. It also revealed that the aesthetics of the divergence between appearance and interiority functioned as a means of breaking down the formalised routine.

研究分野：ミンネザング

キーワード：中世ドイツ文学 ニーベルンゲン トリスタン 指輪 中世フランス文学 コメニウス ルネサンス
ハイデッガー

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

本プロジェクトの当初からのメンバーである伊藤、渡邊、嶋崎は、2014年、2016年、2017年と3回にわたり日本独文学会にてシンポジウムを行い、中世ドイツ文学におけるミンネ(愛)誠実、身体性というテーマについて、とりわけその外面と内面の関係を軸に議論を重ねてきた。2回目の誠実についてのシンポジウム(以下「誠実シンポ」)では中世仏文研究者の高名が、3回目の身体性についてのシンポジウム(以下「身体性シンポ」)では近現代演劇の研究者である山崎が加わった。

1回目のミンネシンポジウム(以下「ミンネシンポ」)では、中世ドイツ文学の世俗化とミンネ(愛)の描写が中心テーマであった。つまり以前は宗教詩が主体であり神への愛が謳われてきたのが、フェルデケ以降の1200年前後のドイツの詩人たちはフランス文学の影響を受けて宮廷的恋愛を歌い始めたからである。しかし、宮廷社会の秩序は個人の内面・良心・純愛といった生々しい部分と対立を起こしたのであった。

2回目の「誠実シンポ」では、その部分の葛藤をキリスト教的文脈で掘り下げた。つまりプラトン、アウグスティヌスの思想の影響から、誠実=変わらざる存在=非物質性と不誠実=変わるもの=物質性、という思想的二項対立が浮かび上がってきたからである。その際の議論の焦点は、キリスト教徒は誠実で異教徒は不誠実である、と言い切れるのか、という疑問である。検証の結果、キリスト教徒でも裏切り者として処断される者がいる一方で、異教徒でも資質や心ばえに優れ、賞賛される者もいるということである。この議論を経てさらに問題となったのは、物語内でなされる身体描写であった。キリスト教徒の身体は神の似姿の相似的存在であり、故に完全性を志向するべく信仰に励むのであるが、異教徒はその身体に何らかの奇異な特徴を付与され神の似姿からの乖離が強調されることが多いからである。しかし、上記のようにキリスト教徒がむしろ不誠実な、悪魔の誘惑に負けた存在として描かれることもあるのであり、そこに身体的な外面と精神的な内面の不一致な関係が見て取れる。

3回目の「身体性シンポ」では「身体描写における逆説的レトリック」がテーマとされたが、議論の中核は肉体の生と死の意味付けの問題へと収斂されていった。ドイツ中世文学の人物描写において肉体性が賞賛されることは少なく、むしろそれが傷つけられたり、死にいたる過程でより深い精神性が暗示されてゆく(伊藤2018、嶋崎2018)。それら中世作品を受容したワーグナーは死に行く身体をより崇高なものへの暗示としてのみならず、さらに官能的、生を強調する逆説的傾向を見せるのである(山崎2018)。

以上のシンポジウムを通じて浮上した、身体の内外の不明瞭な相関についての問題は、物質的な肉体を哲学的・美学的・倫理的にどのように位置づけるのか常に定かでないというところに起因してきた。それは自分の身でありながら自分自身との距離感が定まらないということと同義ではないか、つまり実際に接している「物」の世界を自分との関係性の中に位置づけられないことの苦しみの中世から現代を結ぶ系譜としてドイツ文学の中に表現されているのではないかという問いが生じたことが本研究開始の経緯である。

2. 研究の目的

本研究の目的は、ドイツ中世文学の身体観を近現代のドイツ文化に至る伝統として捉え直すことにある。その際に、その特徴の一つである身体の内面と身体の逆説的関係を、中世フランスの宮廷恋愛文学や騎士道文学、ドイツ・フランスにおける中世・人文主義時代の反権威的な民衆文学の伝統との比較において再検討する。また、中世の逆説的な身体観が、反合理主義的な近代芸術作品において、その想像・虚構の世界のなかで理想化され、さらに純化された身体イメージへと展開し、政治性を帯びて現実の人間の生を規定するに至った点を検証することを目指す。

3. 研究の方法

ナイトハルトを中心としたドイツ宮廷抒情詩、中世ドイツ文学作品『ニーベルンゲンの歌』、『ヴォルムスの薔薇園』、『トリスタン』、『指輪』、中世フランス文学作品『シャルルマーニュの旅行』等の12-13世紀のパロディー的文芸作品を主な考察対象として、中世ドイツ文学における身体イメージの逆説性と逸脱化について、遊戯性との関連を手がかりに検討を行う。また教育思想家コメニウスの戯曲『遊戯学校』(Schola Ludus, 1656)、ヴァーグナーの歌劇『トリスタンとイゾルデ』や『パルジファル』を取り上げ、逸脱化傾向の時代的変遷にも着目しながら考察する。また、ハイデッガーの退屈論やフィンクスの遊戯論を援用しながら遊戯性についての哲学的考察を加える。具体的な担当分担の内容は下記の通りである。

(1) 抽象的なミンネザングの婦人描写が、逆説的に身体の魅力的印象付ける現象を文献学的手法を基に検証する。また身体美の過度な賛美や具象描写が次第にグロテスク化・パロディー化されていく諸相を分析する。

- (2) ゴットフリート作『トリスタン』および作者不詳の『ニーベルンゲンの歌』における身体の象徴的な意味が中世においてどのように理解されていたか、またそれについて近代以降の受容においてどのような解釈が生まれていったかを検証する。
- (3) 中高ドイツ語の宮廷文学作品における身体描写の逆説的性格をどの程度まで「ドイツ的」なものともみなせるかを明らかにするために、中世ドイツ文学の多くに原典を提供したフランス文学作品と比較する。また、フランスにおける騎士道物語や詩における宮廷的恋愛のパロディーとなっている『狐物語』や、中世後期におけるその後継作についても検討をすることで、フランスとドイツの「逆説的レトリック」の方向性の違いについても考察する。
- (4) 「逆説的レトリック」が、中世後期におけるパロディー的な作品においても使用される点を、『指輪』を考察対象として検証する。更にその背後にある中世の同時代の文化的・社会的背景を調査し検証する。
- (5) 身体描写の「逆説的レトリック」は、社会的圧力ゆえに、身体表現・人物表現を抑制せざるを得ず、それ故に暗喩に頼らざるを得なかった中世文学固有のものに移る。しかしこの傾向は、近現代におけるドイツ文化においても引き継がれているのではないか。この推測を検証するために、こうした傾向と親和性が高いと思われるハイデガーの思想を中心に分析し、身体観や遊戯性についての哲学的考察を加える。
- (6) 19世紀末のロマン主義のフィクションの伝統が、民族主義的また純粋主義的な政治的な性格を帯びることで、理想化された身体観を生み出し、規格を外れた現実の身体の排除へと展開した点を検証する。

4. 研究成果

本研究で得られた成果は次の通りである。すなわち、宮廷文化には元来規範の維持と、規範からの逸脱という傾向を備えており、例えばナイトハルトの詩に顕著なように、パロディー的作品に見られるような、暴力や粗暴さといった反宮廷的に思われる性格も、文化を構成する要素としてすでに宮廷文化に内在していた。そして遊戯の特徴である、規則の中で学び、成長するという教育的要素と、精神を束縛から解放する娯楽的な要素という二律背反が宮廷文化を特徴付けている。また『ヴォルムスの薔薇園』に代表されるように、中世文学は伝統的に、作者独自の創作よりも翻案を尊ぶ傾向があり、中世文学全体が真似を楽しむ一種の遊戯の文学であった。

また本研究を進めていく中で、「老い」と「若さ」に着目して身体の逆説性を論じてはどうかという案がメンバー間の議論において一致した。そのため2021年度はこのテーマで考察を進めた。得られた成果は以下の通りである。すなわち、「老い」というモチーフは、恋愛叙情詩ミンネザングにおいては「高きミネ」概念が発生した1170年頃から登場する。抒情詩において「老い」は「誠実さ」を表現するためのトポスでもあった。さらにヴァルターやナイトハルトの詩では、かつての理想的な宮廷風作法を語ることのできる「賢明な者」として老人が語り手として登場する。元来、中高ドイツ語の「愚かさ」(tump)は、語義的には経験を積むことで「賢明」になる可能性を示唆しており、この点についてはミンネザングの歌人ヴァルターやナイトハルトの認識と合致している。しかし宮廷叙事詩『トリスタン』や中世フランスの作品『狐物語』では、成長による「若さ」にゆえの「愚かさ」の克服が描かれず、登場人物が元来備えていた、激情的性格や愚かさが強調されている。「若さ」は身体においては美点である一方、経験が浅いが故の「愚かさ」を表し、逆に「老い」は身体的魅力に乏しいが「賢明」であるという、外面的美德と内面的美德の逆説的關係は必ずしも成立しておらず作品によって多義的に解釈されている。

研究の途中経過は、2019年10月に開催された日本独文学会秋季研究発表会(於:成城大学)にて、「中世的身体イメージと遊戯性 宮廷文化に内在する逸脱の傾向」という題目でシンポジウムを企画・開催して発表した。またシンポジウム開催で得られた知見を踏まえ、日本独文学会叢書(中世的身体イメージと遊戯性 -宮廷文化に内在する逸脱の傾向)日本独文学会研究叢書143(嶋崎啓編)日本独文学会)として刊行した。最終的な研究成果は『広島ドイツ文学』第36号にて発表する予定である。なお当初の研究計画に挙げていた、近現代ドイツにおける中世の逆説的身体観の連続性に関して、分担者それぞれの個別研究は進んでいるものの、最終年度で取り纏めるには至らず、研究は継続中である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計29件（うち査読付論文 16件 / うち国際共著 1件 / うちオープンアクセス 24件）

1. 著者名 山崎明日香	4. 巻 55
2. 論文標題 ルネサンス期の演劇教育の考察：俳優と貴族階級の関係発展を中心に	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 リュンコイス	6. 最初と最後の頁 69-88
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 高名康文	4. 巻 13
2. 論文標題 ファブリオーにおける貨幣	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 西洋中世研究	6. 最初と最後の頁 50-63
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 渡邊徳明	4. 巻 55
2. 論文標題 大林宣彦の映画に見られる生死の混淆と円環的時間， ヨーロッパの文化・思想との関係を中心に	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 リュンコイス	6. 最初と最後の頁 91-112
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 陶久明日香	4. 巻 37
2. 論文標題 小平健太著『ハンス＝ゲオルク・ガダマーの芸術哲学 - 哲学的解釈学における言語性の問題』（晃洋書房、二〇二〇年）（書評）	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 現象学年報	6. 最初と最後の頁 139-143
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊藤亮平	4. 巻 34
2. 論文標題 デア・フォン・キューレンベルクのリートに見られる身体美と内面的美德	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 広島ドイツ文学	6. 最初と最後の頁 31-46
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Asuka Yamazaki	4. 巻 54
2. 論文標題 "Allgemeiner Wille" in Zaesuren: Die Durchbrechung herkaemmlicher Machtstrukturen durch die neuen Buergerinitiativen und -bewegungen	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Lynkeus	6. 最初と最後の頁 1-16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 山崎明日香	4. 巻 6
2. 論文標題 ライプニッツの王子教育論におけるレトリック教育について	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 ライプニッツ研究	6. 最初と最後の頁 123-142
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 陶久明日香	4. 巻 3
2. 論文標題 エディット・シュタインにおける現象学と共同体論 情と女性の論に着目すると見えてくること	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本現象学・社会科学会編『現象学と社会科学』	6. 最初と最後の頁 19-34
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 陶久明日香	4. 巻 40
2. 論文標題 記憶と嗅覚、そして天才：P.ジュースキント『香水』を読む	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 成城大学大学院文学研究科編『ヨーロッパ文化研究』（富山典彦教授追悼号）	6. 最初と最後の頁 35-49
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 渡邊徳明	4. 巻 54
2. 論文標題 Creativity of the mythical world image in medieval German epics –ab out Cordula Kropik's Gemachte Welten (Created worlds, 2018)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 桜門ドイツ文学会『リュンコイス』	6. 最初と最後の頁 33-49
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊藤亮平	4. 巻 143
2. 論文標題 ナイトハルトに見られる暴力的な笑い	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本独文学会研究叢書	6. 最初と最後の頁 33-46
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 嶋崎啓	4. 巻 143
2. 論文標題 ヴィッテンヴィーラー『指輪』における宮廷的な卑俗な身体	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本独文学会研究叢書	6. 最初と最後の頁 47-57
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 高名康文	4. 巻 143
2. 論文標題 フランス中世文学における規範と逸脱 『シャルルマーニュの旅行』における「ぼら」(gabs)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本独文学会研究叢書	6. 最初と最後の頁 21-32
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 高名康文	4. 巻 52
2. 論文標題 フォヴェール、ルナール、フォルトゥーナ: 『狐物語』後継作と『フォヴェール物語』	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 仏語仏文学研究	6. 最初と最後の頁 3-18
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15083/00079080	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 高名康文	4. 巻 39
2. 論文標題 『狐物語』と『フォヴェール物語』における人間/動物/仮面	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 ヨーロッパ文化研究	6. 最初と最後の頁 79-99
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 高名 康文	4. 巻 -
2. 論文標題 『狐物語』とトリスタン伝説、そしてアーサー王伝説	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 国際アーサー王学会日本支部オフィシャルサイト「アーサー王伝説解説」	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 有田豊, ヴェスイエール・ジョルジュ, 片山幹生, 高名康文	4. 巻 10
2. 論文標題 歴史で謎解き! フランス語文法 souvent と chantent の語末の発音が違うのはなぜ?	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 三省堂 辞書ウェブ編集部「ことばのコラム」	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 有田豊, ヴェスイエール・ジョルジュ, 片山幹生, 高名康文	4. 巻 13
2. 論文標題 歴史で謎解き! フランス語文法 なぜ、de bons restaurants の de は、des じゃないの?	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 三省堂 辞書ウェブ編集部「ことばのコラム」	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 渡邊徳明	4. 巻 53
2. 論文標題 20世紀前半における中世的世界観の復活 - 『中世の秋』とドイツ語圏の思想の関わりを中心に -	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 桜門ドイツ文学会『リユンコイス』	6. 最初と最後の頁 1-16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 渡邊徳明	4. 巻 143
2. 論文標題 『ニーベルンゲンの歌』と『ヴォルムスの薔薇園』における遊戯性の意味 ホモ・ルーデンスのコスモロジー	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本独文学会研究叢書	6. 最初と最後の頁 3-20
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 YAMAZAKI, Asuka	4. 巻 143
2. 論文標題 Die Darstellung des Koenigs in Comenius' Schola Ludus	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本独文学会研究叢書	6. 最初と最後の頁 58-70
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 山崎明日香	4. 巻 23
2. 論文標題 ネストロイの演技術と法領域の変動について	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 ヘルダー研究	6. 最初と最後の頁 63-94
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 YAMAZAKI, Asuka	4. 巻 25(1)
2. 論文標題 Leibniz's Theory of Princely Education: The Introduction of the Theatrical Method	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Journal of Humanities and Sciences, Nihon University	6. 最初と最後の頁 11-34
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 YAMAZAKI, Asuka	4. 巻 -
2. 論文標題 Use of Traditional Japanese Games in Intercultural German Conversation Classes: A Study Based on Comenius' Concept of Playful Learning	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 GDVT- Jahrestagung / Symposium 2019 Programm	6. 最初と最後の頁 171-190
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 YAMAZAKI, Asuka	4. 巻 53
2. 論文標題 Teaching German Language Conversation Courses through Games (vol. 1): Using German Educational and Intellectual Board Games	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 桜門ドイツ文学会『リユンコイス』	6. 最初と最後の頁 101-115
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 山崎明日香	4. 巻 25巻(2・3号合併号)
2. 論文標題 ICT活用によるインタラクティブなドイツ語文法授業モデルとその分析	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本大学商学部『総合文化研究』	6. 最初と最後の頁 19-49
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 陶久明日香	4. 巻 665
2. 論文標題 「聖なる悲しみ」についての一考察	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 立命館文學	6. 最初と最後の頁 1003-1016
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 陶久明日香	4. 巻 143
2. 論文標題 逸脱という現象 退屈と遊戯の場合	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本独文学会研究叢書	6. 最初と最後の頁 71-86
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Asuka Suehisa	4. 巻 35
2. 論文標題 Continuity and Discontinuity Between Human Beings and Other Organisms : Comments on Dr. Daniel D. Hutto's Presentation "Mind in Skilled Performance : Competence Without Content or Comprehension" (Special Issue : Phenomenology of Collective Action)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本現象学会『現象学年報』	6. 最初と最後の頁 35-38
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計30件(うち招待講演 1件/うち国際学会 5件)

1. 発表者名 伊藤亮平
2. 発表標題 ミンネゼンガーに見られる「宮廷」概念について
3. 学会等名 日本独文学会中国四国支部
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 伊藤亮平
2. 発表標題 宮廷恋愛詩における「若さ」と「老い」
3. 学会等名 国際アーサー王学会日本支部
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 嶋崎啓
2. 発表標題 中高ドイツ語における tump「愚かな」の語義について
3. 学会等名 国際アーサー王学会日本支部
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 山崎明日香
2. 発表標題 弁神論における快苦原理の分析：快苦の非分離性、量化、非可視化を中心に
3. 学会等名 日本ライブニッツ協会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 山崎明日香
2. 発表標題 誰もが生き生きとした俳優であるべき : ルネッサンス期の演劇教育と俳優についての考察
3. 学会等名 桜門ドイツ文学会研究発表会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Asuka Yamazaki
2. 発表標題 Theaters in the Ara of The Mass of Extinction: From Leibniz ' s Concept of Theatre de la Nature et de l ' Art to The Modern Digital Art Museum
3. 学会等名 International Federation for Theatre Research (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 高名康文
2. 発表標題 『狐物語』における老い
3. 学会等名 国際アーサー王学会日本支部
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 高名康文
2. 発表標題 どうして、フランス語では、2人称複数の代名詞 vous が、tu の敬称として使われているの？
3. 学会等名 関西フランス語教育研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 渡邊徳明
2. 発表標題 大林宣彦の映画に見られる不気味さ ドイツ語圏の文化・思想との関連を中心に
3. 学会等名 桜門ドイツ文学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 渡邊徳明
2. 発表標題 大林宣彦の映画作品の時と生と死 微積分的イメージの向こうにいる死者たち
3. 学会等名 日大口腔科学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 渡邊徳明
2. 発表標題 『トリスタン』における二代にわたる「若気の至り」？ イゾルデとの愛をめぐって
3. 学会等名 国際アーサー王学会日本支部
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 伊藤亮平
2. 発表標題 ナイトハルトのリートにおける「老年期」のモチーフについて
3. 学会等名 日本独文学会中国四国支部
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 山崎明日香
2. 発表標題 Zoomを利用した語学授業の成功モデルの例：アクティブラーニング導入から、前期の課題の検討まで
3. 学会等名 日本大学全学FD 委員会主催（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 渡邊徳明
2. 発表標題 1920年代における理性と神話をめぐるディスクールと中世文学研究 -; コルドゥラ・クローピック著『作られた諸世界』の解題
3. 学会等名 桜門ドイツ文学会研究発表会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 渡邊徳明
2. 発表標題 Diskurse ueber phantastische und unheimliche Koerper im Kontext der Identitaetsfrage
3. 学会等名 日本独文学会文化ゼミナール
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 伊藤亮平
2. 発表標題 ナイトハルトのリートにおける逸脱化と暴力的な「笑い」
3. 学会等名 日本独文学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 伊藤亮平
2. 発表標題 ヴァルターにおける老年期 - Alterstonを中心に -
3. 学会等名 広島独文学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 嶋崎啓
2. 発表標題 ヴィッテンヴィーラー『指輪』における宮廷的な卑俗な身体
3. 学会等名 日本独文学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 高名康文
2. 発表標題 フランス中世文学における規範と逸脱：『シャルルマーニュの巡礼』の場合
3. 学会等名 日本独文学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yasufumi TAKANA
2. 発表標題 Qui poursuit Renart ? (RenR, vv. 5921 et sq.)
3. 学会等名 International Reynard Society, XXIIIth Colloquium (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 高名康文
2. 発表標題 『狐物語』と『フォヴェール物語』における人間/動物/仮面
3. 学会等名 日本フランス語フランス文学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 渡邊徳明
2. 発表標題 プレイの文化学—規範と逸脱・意識と無意識
3. 学会等名 第19回日本大学口腔科学会学術大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 渡邊徳明
2. 発表標題 英雄叙事詩『ヴォルムスの薔薇園』における遊戯性の意味
3. 学会等名 日本独文学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山崎明日香
2. 発表標題 コメニウスの『遊戯学校』と王の表象
3. 学会等名 日本独文学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山崎明日香
2. 発表標題 The Development of Actor 's Cosmopolitan and Enlightened Identity: Through the Promotion of Theater Education and Market Cosmopolitanism
3. 学会等名 International Society for Eighteenth-Century Studies (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山崎明日香
2. 発表標題 ライブニッツの王子教育論におけるレトリック教育について
3. 学会等名 日本大学商学部 桜門ドイツ文学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山崎明日香
2. 発表標題 貴族教育に導入された演劇教育について : ルネッサンス時代からバロック時代までの言説を手がかりに
3. 学会等名 日本独文学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 YAMAZAKI, Asuka
2. 発表標題 Use of Traditional Japanese Games in Intercultural German Conversation Classes: A Study Based on Comenius' Concept of Playful Learning
3. 学会等名 GDVT, Symposium und Jahrestagung 2019 des Germanisten- und Deutschlehrerverbands Taiwan (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Asuka Suehisa
2. 発表標題 Awe and Restraint - Bollnow and Heidegger
3. 学会等名 The Nordic Society for Phenomenology (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 陶久明日香
2. 発表標題 エディット・シュタインにおける女性と共同体
3. 学会等名 日本現象学・社会科学会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 ハイデガー・フォーラム編(陶久担当pp.52-55,135-137)	4. 発行年 2021年
2. 出版社 昭和堂	5. 総ページ数 664
3. 書名 ハイデガー事典	

1. 著者名 陶久明日香・長綱啓典、渡辺和典編(陶久担当pp.4-7)	4. 発行年 2022年
2. 出版社 工作舎	5. 総ページ数 456
3. 書名 モナドから現存在へ 酒井潔教授退職献呈記念論集	

〔産業財産権〕

〔その他〕

『トリスタン』の愛についての一考察 https://arthuriana.jp/legend/tristan_love.php
--

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	嶋崎 啓 (SIMAZAKI Satoru) (60400206)	東北大学・文学研究科・教授 (11301)	
研究分担者	高名 康文 (TAKANA Yasufumi) (80320266)	成城大学・文芸学部・教授 (32630)	
研究分担者	陶久 明日香 (SUEHISA Asuka) (80515817)	学習院大学・文学部・教授 (32606)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	山崎 明日香 (YAMAZAKI Asuka) (10707350)	日本大学・商学部・准教授 (32665)	
研究分担者	渡邊 徳明 (WATANABE Noriaki) (20547682)	日本大学・松戸歯学部・准教授 (32665)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関